

地元金融機関調査 「調査レポート」より

2017年2月

<p>調査レポート名 百五経済研究所 「地域経済レポート」 2017年1月</p>	<p>概要（一部抜粋）</p> <p>【三重県の状況について】 [現在の景気]：横ばい圏内の動きから抜け出しつつある。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、生産は持ち直し、雇用は拡大傾向。 [当面の見通し]：緩やかに持ち直す見通し。生産、設備投資の持ち直しが期待され、雇用は高水準を維持する。</p> <p>〈トピックス〉</p> <p>いなべ市は、12月、新名神高速道、東海環状自動車道の整備を見据えて、2020年までに、工業団地を新たに2か所以上、造成することを明らかにした。同市は、両高速道の整備により愛知県と関西、北陸の結節点として工場立地の優位性が高まる。2018年度には市内に東海環状道のI.C.が開業する予定。道路網の整備を見据え、ヤマザキマザックや食品パッケージの製造メーカーなどが工場建設を進めている。</p> <p>個人消費：一部で弱い動き 11月の家計消費支出（津市・二人以上）は3.1%減で6か月連続の減少 住宅建築：横ばい 11月の住宅着工戸数は、前年比13.1%減で2か月ぶりに減少 設備投資：横ばい 12月の貨物自動車販売（普通＋小型＋軽）は、前年比12.2%増 公共工事：弱含み 12月の公共工事請負件数は、前年比21.9%減となり3か月連続で減少 輸出入：底離れしつつある 11月の県内3港の通関輸出額（速報）は、前年比10.2%増 生産活動：持ち直し 10月の鉱工業生産指数（季調済）は130.4となり、前月比5.7%上昇 雇用情勢：拡大傾向 11月の有効求人倍率（季調済）は1.44倍で、43か月連続で1倍を超える</p>
<p>三重銀総研 「調査レポート」 No. 87 2017年1月</p>	<p>三重県経済成長率について</p> <p>◆2004年～2006年期及び2007年～2009年期は産業構造の変化が三重県経済に影響を与えていたが、2010年～2013年期ではほとんど影響を与えることがなく、地域におけるインフラの充実度等がプラス成長への要因となってきている。</p>
<p>三重県信用金庫協会 「三重県しんきんレポート」 vol. 16 2017年1月</p>	<p>●東芝等の民間の大型設備投資や第二名神・東海環状道路等の公共工事による大手デベロッパー向けの宿泊需要が堅調で、平日の客室稼働率は高水準で推移。秋以降の週末の天候不順等によるレジャー客需要の落ち込みで週末・休日の客室稼働率は低下している。（サービス業・ビジネスホテル） ●今春より、機械メーカー向けの受注増によりフル稼働状態に転じる。ものづくり補助金を活用した設備更新投資を実施し受注増に対応している。（製造業・アルミ部品加工） ●木曾三川護岸工事等の大型公共工事受注が前年度から発生し、高水準での受注が継続している。慢性的な人手不足の解消が見込まれないことから、社員・協力企業を効率的に活用することで対応している。（建設業・土木建設） ●近隣にセルフスタンドがオープンすることに伴い競争激化が予想され、車両整備等も含めたフルサービスとしての特性を活かし、差別化を図ることで顧客流出を防ぐ。手厚いサービスを提供するために人材確保に努めている。（小売業・ガソリンスタンド）</p> <p>北部 北勢・伊賀の業況</p> <p>業況は2期連続して改善するも、来期は悪化の見通し</p> <p>●直近の業況 2016年10月、12月期の三重県北部の業況判断DI（実績）は3・9と、前期比+1・3ポイントの小幅な改善となった。業種別では、建設業、卸売業で改善、製造業で横ばい、サービス業、小売業、不動産業で悪化となった。</p> <p>●来期の見通し 2017年1月～3月期の三重県北部の業況判断DI（予想）は0・0と、当期比▲3・9ポイント悪化の予想である。業種別では、サービス業、小売業で改善、卸売業で横ばい、製造業、建設業、不動産業で悪化の予想である。</p>